

行事外山行

権現山(千穂ヶ峯裏道)西面の熊野川沿いの立津呂道の探索

◇実施日：2018年01月07日(日)晴

◇参加者：児嶋道夫、川島 功、濱野兼吉、松本 良・邦子、

畑林清子、上村洋司・和美、金丸 守、脇地眞理。

10名。

速玉神社駐車場に9時集合であったが少し早く全員が揃った。今回初参加は金丸、脇地の両氏。児嶋さんからルートの説明や注意事項を受け、8時55分に出発。相筋に向かって堤防を歩く。雇用促進住宅を川原に向かって「御旅所」に下る。かつて御旅所はもつと高い場所にあったそうだが、いつの時代か現代の場所に移動したようである。

御旅所を過ぎ、乙基の川原から左に折れて枝垂桜の公園広場を抜け、いよいよ「筏師の道」なのか「網場(あば)」への作業道なのか、ここが千穂ヶ峯裏道(立津呂道)の出発点である。



速玉大社Pで打合せ



熊野権現御旅所石標



権現山国有林板と公園

南東に流下して来た熊野川は、固い岩盤の権現山に遮られ一時北流に蛇行して東に流下し太平洋に注ぐため、西面は熊野川の激

流に削られ、岩場が露出した急峻な斜面になっている。この崖下を通る道が、立津呂道(たてつるみち)と呼ばれているそうである。本州製紙・王子製紙熊野工場(2000年撤退)の揚水場がレンガで囲われて、立ち入らないようさらに金網のフェンスも張られている。人が通らないので篠竹藪が茂る。下見の時に笹を刈り取ったので、ルートがはっきりしてきた。

ここから登りにさしかかる。厳しい登りではないが、このルートの最大の急坂である。対岸から見ると川から柱状節理が張り出して、樹木はなく道は高捲きせざるを得ない、この岩場は畳石と呼ばれ、この付近から下流の淵は「漆か淵(うるしかふち)」と呼ぶらしい。

ふと川面を見ると白いカヌーが一艇上流に向かって上ってくる。ここを過ぎれば川岸に下るので出会うかなと思っていたが、カヌーは方向を変え下流へと引き返した。



製紙(株)取水管・揚水場



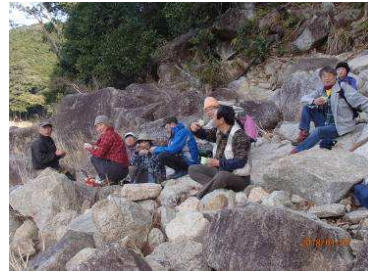
千穂ヶ峯の西面(対岸より)



測量水準点

高捲きを過ぎるとルートは、崩れたゴロゴロ岩の間を少し下って川に近づく。私は高い所に通れるルートはないかと探す、とても道らしきところはない。皆さんとは少し遅れ、石を落として下を通る人には影響のないように時間差を設ける。道にはなっていない。遅れている私を気遣って金丸さんが、しよっちゅう声

をかけてくれる。出発して約1時間で水準点に到着する。  
水準点から約10分で、少し開けた場所があり見晴らしも良く、丁度このルートの中地点。いつものようにカフェ児嶋をオープンし、コーヒーやお菓子の差し入れがあつて、談笑しながら休憩をする。



喫茶児嶋の開店

巴川製紙取水場横の階段

旧越路トンネル前

ここから168号線の旧越路トンネルまで約1時間。大きな岩がゴロゴロして、葛が繁ってルートを塞ぎ、鎌で刈払いながら進む。途中には何カ所か筏流しで木材が運搬された往時には、此処に流出材をせき止める筏の網場(あば)があり、その網場を固定した古のワイヤーロープが点在し俣ばれる所であり、網場跡のワイヤーが樹に繋がったまま残されている。

児嶋さんはここが一番危険だという箇所を高捲きして、トラロープを垂らしてくれる。下見の時は高捲きをした私も無理をせずトラロープを利用して登る。

難所を全員無事通過すると、熊野川の流れが直接千穂ヶ峰に当たって左折する場所の上に出る。ここには2011年の水害の際漂着したプロパンガスのボンベや流木が散乱し、そのまま堆積している。踏み抜かないように慎重に歩く。

そこから少し下ると此処にも漂着した流木や瓦礫があり、その

上を滑らないように葎原(よしはら)におりる。  
巴川製紙所・新宮工場(1995年撤退)の取水口に沿って石段を登ると旧越路トンネル前が出る。全員無事「秘境千穂ヶ峰裏道・立津路道」の探索を終了した。

千穂ヶ峰の裏(西側)は、熊野川から急峻に切り立った崖に照葉樹林が繁り、針葉樹が点在する。急峻さ故に樹木は伐採されることなく原生林のまま残され、ホルトノキ、カゴノキ、イスノキ、タブノキ等の海岸線で見られる樹木や蔓性の植物も多く、熊野を特徴的づける樹林層が見られる貴重な森である。

北の端の最高峰・千穂ヶ峰から南の神倉山(199m)の総称が権現山で、この一帯は権現山国有林になっている。

国土地理院の千穂ヶ峰(III△253.4m)の点名は権現山である。

神が宿る山、神が降臨される山として敬われてきた山で、鎮護ヶ峰(修験者達の修行や国家鎮護の祈念が行われた山籠の聖地)とも呼ばれていた。権現は菩薩が民衆を救うために種々の身や物を権(かり)現すことである。この山の周辺では多くの経塚等が出土している。

川島さんによれば、この急峻な岩場でロッククライミングの練習した場所があつたが今は定かでない。東面の神倉神社の上横の岩場では、時折フリークライミングの練習をする方もいる。

今回は金丸さんと脇地さんの初参加もあり、町中を少し離れれば、熊野を代表する原生林と、かつて林業で栄えたこの町を特徴づける筏や材木を集積する「網場跡」一般の人を誘うにはチョット危険な秘境を体験することができた。少年・少女に戻ったような楽しく、貴重な一時を過ごす事ができた。

### 行動タイム

速玉大社駐車場 9:00→9:55 水準点→10:15 瀬谷前岩場(コーヒー休憩) 10:35→11:30 旧越路トンネル前→12:05 速玉大社駐車場。



鹿道状態の立津呂道の草刈りとマーキングしました。



これも熊野古道かな！



昔の枝を繋ぎ止めるワヤも残ってる



原生林の立津呂木の種類が色々

立津呂道概略図(作図:児嶋)

(記:濱野、写真:川島、作図:児嶋)